

株式会社バイ・テクノロジー

2022年3月期 第2四半期

# 中間決算説明会

～ 決算補足説明資料 ～

2021年11月9日

# 将来見通し等について

## ▶ 将来見通し

本資料に記載されている当社の計画、戦略、見通し及びその他の歴史的事実でないものは、将来に関する見通しであり、これらは現在入手可能な期待、見積、予想に基づいています。これらの期待、見積、予想は、経済情勢・市況の変化、競争環境の変化、顧客のある国の政策変化、係争中及び将来の訴訟の結果など多くの潜在的リスク、不確実な要素、過程の影響を受けますので、実際の業績は見通しから大きく異なる結果となる可能性があります。従って、これら将来予想に関する記述に全面的に依拠することは差し控えて頂きますようお願いいたします。また、当社は新しい情報、将来の出来事などに基づきこれらの将来予測を更新する義務を負うものではありません。

## ▶ 為替リスク

当社の主力製品である、フラットパネルディスプレイ製造装置の輸出販売は、原則円建てで行われております。一部に外貨建て決済もありますが必要に応じて受注時に為替予約を付し、為替変動リスクをヘッジしております。従って、装置販売に関する為替レート変動による影響は軽微であります。

## ▶ 数字の処理

記載された金額は、単位未満を切り捨て処理、比率は単位金額で処理した結果を四捨五入している為、内訳と一致しない場合があります。

## ▶ 会計方針の変更について(詳細は2022年3月期第2四半期決算短信Page9をご確認下さい)

### ① 収益認識に関する会計基準等の適用

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を2022年3月期第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

### ② 時価の算定に関する会計基準等の適用

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を2022年3月期第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、当該会計基準等の適用が四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

## ▶ 報告セグメントの変更等に関する事項

従来、量的基準より判断して、当社の報告セグメントは「FPD事業」のみとなるため、セグメント情報の記載を省略しておりましたが、2022年3月期第1四半期連結会計期間において、量的な重要性が増したため、報告セグメントを従来の単一セグメントから、「FPD事業」、「半導体事業」の2区分に変更し、報告セグメントに含まれない事業セグメントを「その他」としてセグメント情報を開示しております。なお、市場、顧客の種類及びサービスの内容が概ね類似している事業セグメントを集約しております。

## 1. Q2売上・利益は、概ね計画通りに着地、半導体事業に存在感

### ▶ 売上利益 (Page4~5、9)

- 売上は上期計画に概ね沿う着地、利益は計画より上振れ
- 半導体事業は成長、第二の事業として存在感

### ▶ 受注 (Page8)

- 半導体事業の受注は伸長も、投資端境期のLCD受注は、大口受注のあった前四半期比で減少
- Q3受注は、新製品の評価の進展や半導体関係の商談成約を見込み、Q2を上回る見通し

## 2. 通期業績予想を下方修正

### ▶ 修正理由 (Page15)

- ①新型コロナウイルスによる新製品投入の遅れ、②半導体部材納期長期化による生産計画の遅延、③顧客設備投資計画・納期の変更

## 3. 製品開発と製品個別の状況

### ▶ 製品開発体制 (Page17~18)

- トップメーカーとの連携を強化すると同時に、リソースの選択と集中を行い開発を加速

### ▶ 製品個別(Page18~21)

- フォトマスク検査装置(Page18)
- 半導体パッケージ用露光装置(Page18)
- 子会社別の製品個別状況(Page19~21)

## 連結業績

- ▶ 半導体事業が進展も、全体としては減収減益
  - 純利益は、子会社の完全子会社化等により前年比で増加

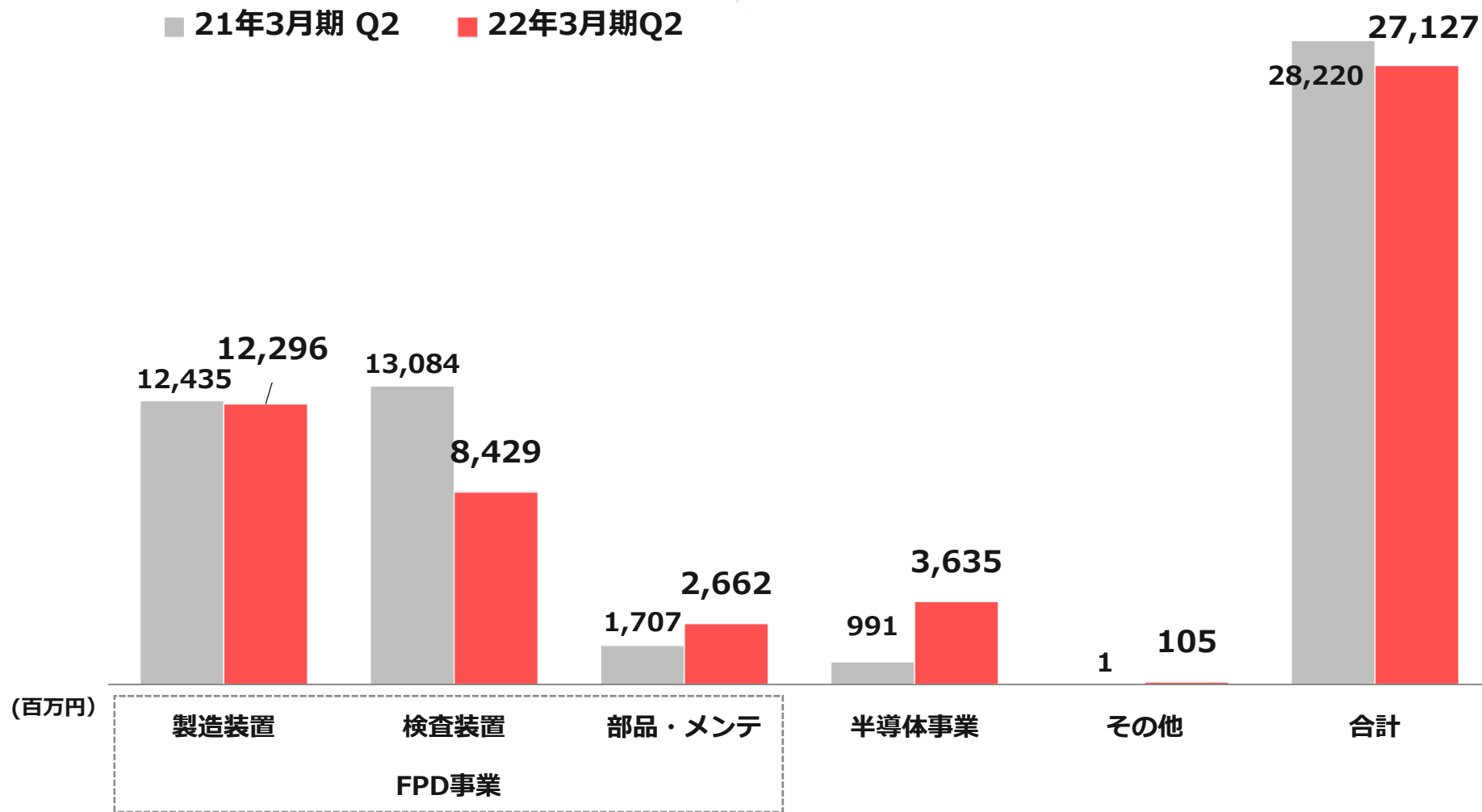
(百万円)	2021年3月期Q2(6カ月)		2022年3月期Q2(6カ月)			(参考) 上期予想
	金額	構成比	金額	構成比	前年比増減	
売上高	28,220	100.0%	27,127	100.0%	▲3.9%	27,300
売上総利益	7,334	26.0%	7,309	26.9%	▲0.3%	—
営業利益	2,941	10.4%	2,542	9.4%	▲13.6%	2,100
経常利益	2,877	10.2%	2,462	9.1%	▲14.4%	2,050
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,477	5.2%	1,893	7.0%	+28.2%	1,650

# 連結業績(事業セグメント情報)

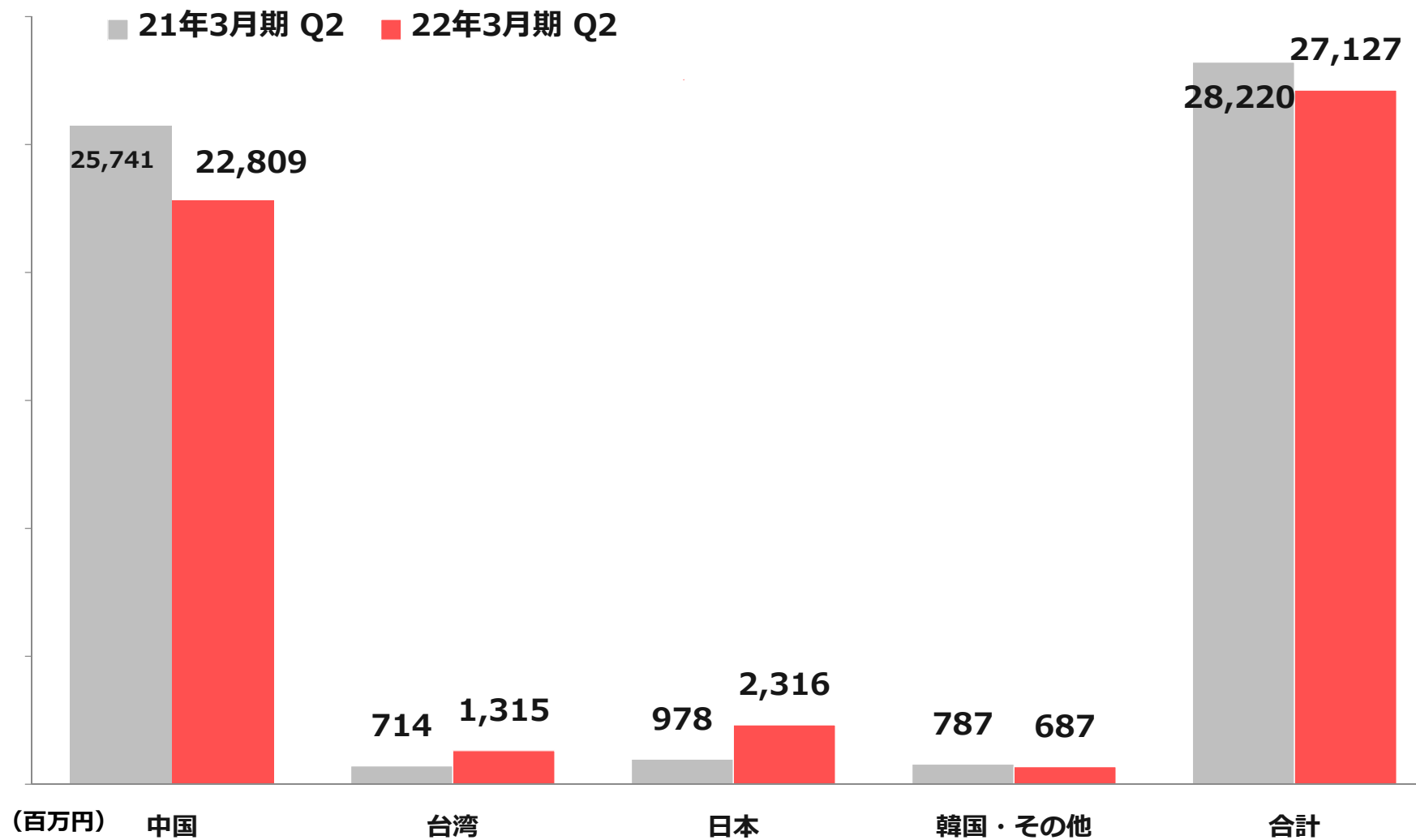
## ▶ 半導体関連の売上と利益は順調に増加

セグメント情報 (金額単位：百万円)		21年3月期Q2	2022年3月期Q2		
		金額	金額	前年比増減 (▲は減少)	セグメントについて補足
半導体	売上高 (売上構成比)	991 (3.5%)	3,635 (13.4%)	+266.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>NSS、Lithotec Japan(LTJ)、OHT及びVテクの半導体およびPCB事業等で構成</li> <li>売上・利益は、LTJ子会社化、NSS・OHTの増収増益で伸長</li> <li>利益率は、子会社販売およびZ-CSET向けが伸長し、今期Q1(6.5%)比で+2.4ポイント改善</li> </ul>
	営業利益	89	324	+264.0%	
	利益率	9.0%	8.9%	▲0.1%	
FPD	売上高 (売上構成比)	27,227 (96.5%)	23,386 (86.2%)	▲14.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>Vテク、OHTのFPD装置事業、蒸着マスク事業(VET)、サルベージ(VSC社)等で構成</li> <li>売上は、概ね計画通り</li> <li>利益は、製品構成の変化により減少</li> <li>VET(蒸着マスク)は、下期からの業績寄与を目指し、顧客との評価と工程改善作業進行</li> </ul>
	営業利益	2,936	2,322	▲20.9%	
	利益率	10.8%	9.9%	▲0.9%	
その他	売上高	1	105	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>有機EL照明事業(Lumiotec)等で構成</li> <li>照明事業は、灯具販売の準備や生産体制の整備が進展</li> </ul>
	営業損失	▲84	▲105	—	
	利益率	—	—	—	
全社	売上高 (売上構成比)	28,220 (100.0%)	27,127 (100.0%)	▲3.9%	—
	営業	2,941	2,542	▲3.9%	
	利益率	10.4%	9.4%	▲1.0%	

# (参考) セグメント別連結売上高



## (参考) 地域別連結売上高

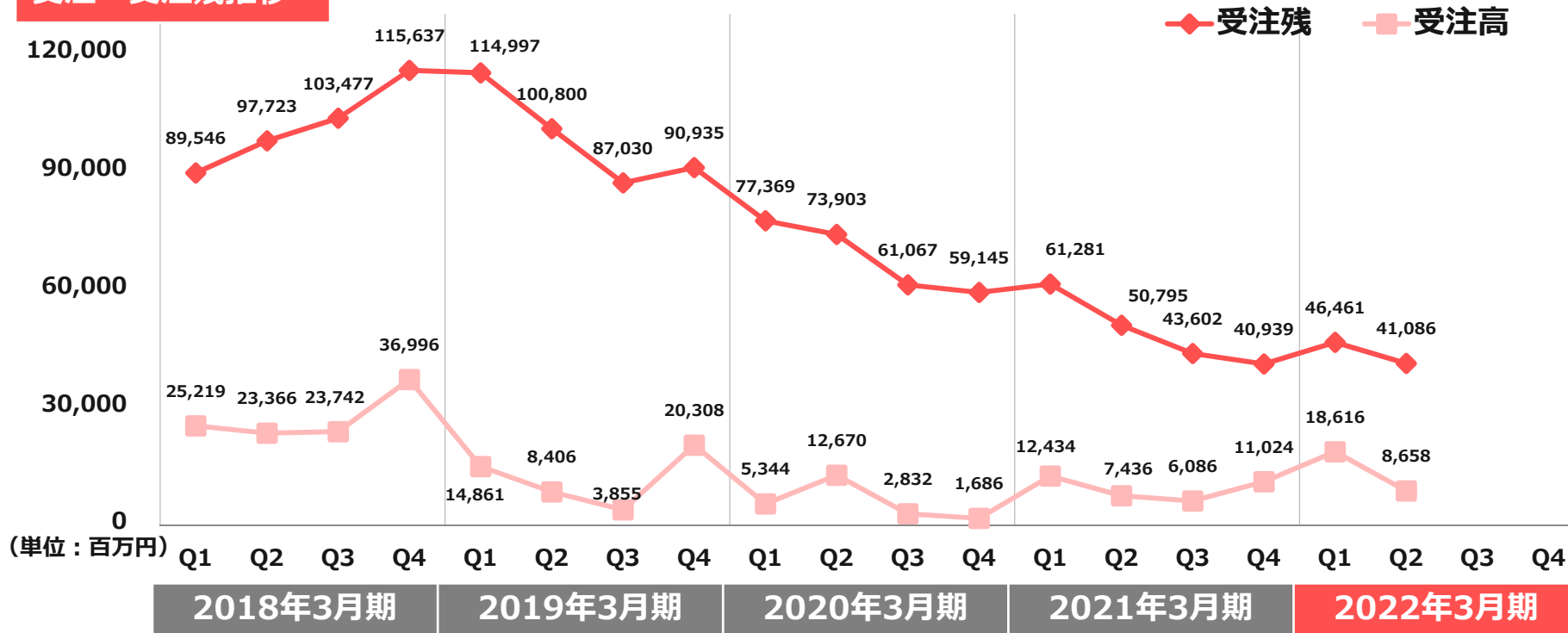


# 連結受注残・四半期連結受注高の推移

## ▶ 上期受注高は前年比で増加

- ▶ VT開発中の新製品や半導体事業の受注等が寄与し、Q3受注はQ2を上回る見込み

### 受注・受注残推移

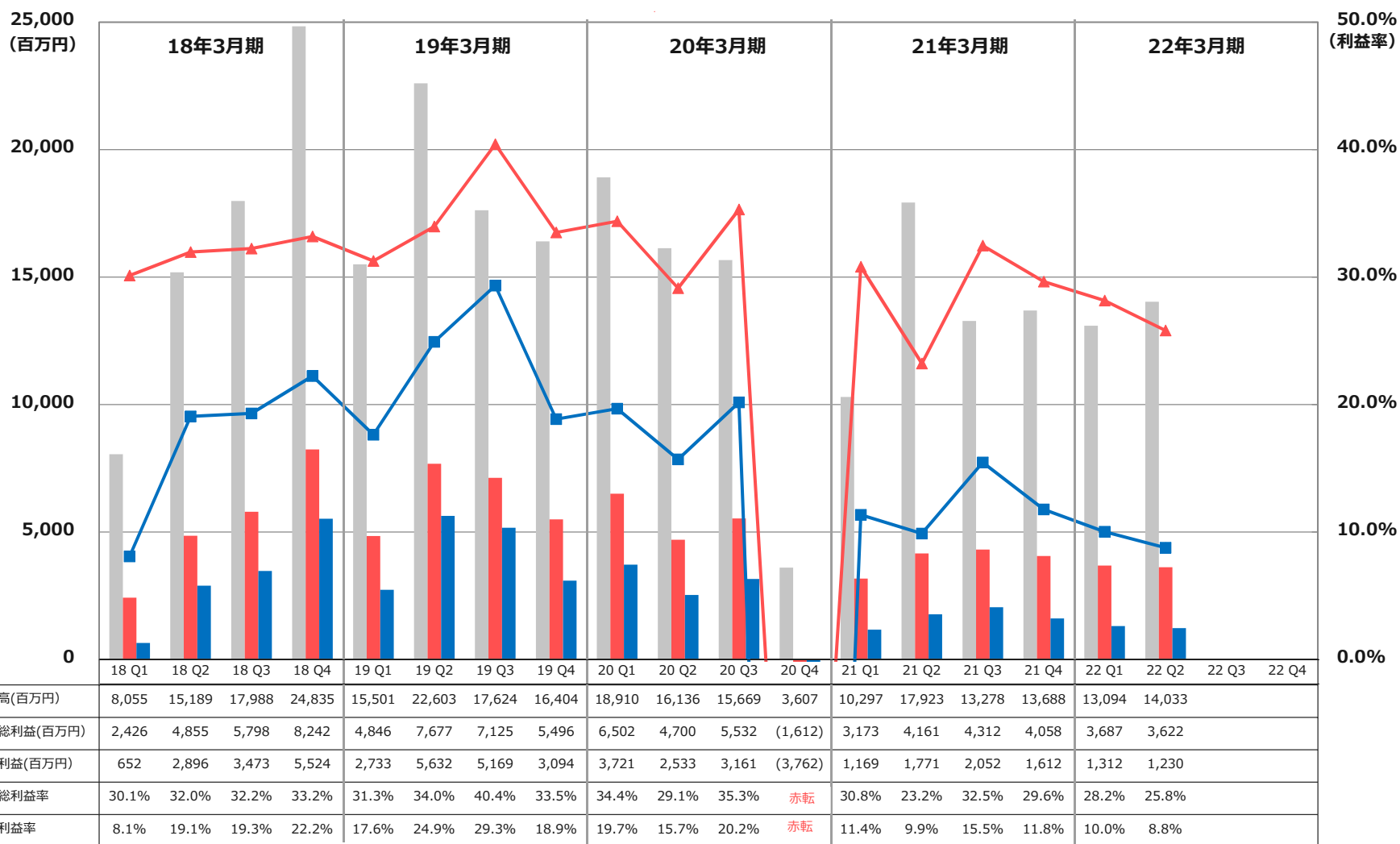


セグメント別受注/受注残 (単位:百万円)	受注高		受注残高	
	2021年3月期Q2	2022年3月期Q2	2021年3月期Q2	2022年3月期Q2
FPD	19,014	24,509	48,843	36,634
半導体	854	2,659	1,951	4,452



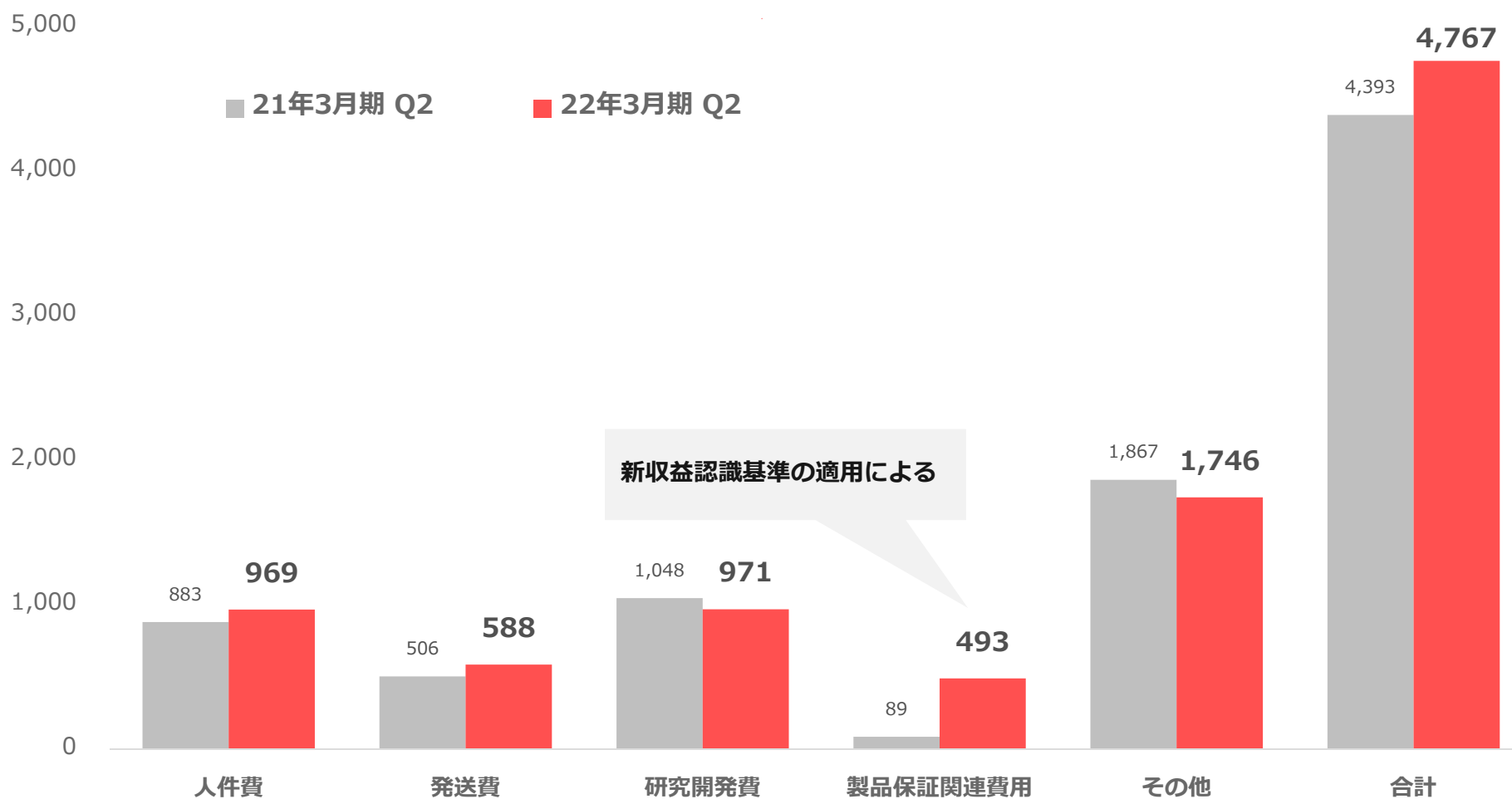
# 四半期毎連結売上高・利益の推移

▶ 四半期売上・利益は、顧客および売上構成の違いで変化



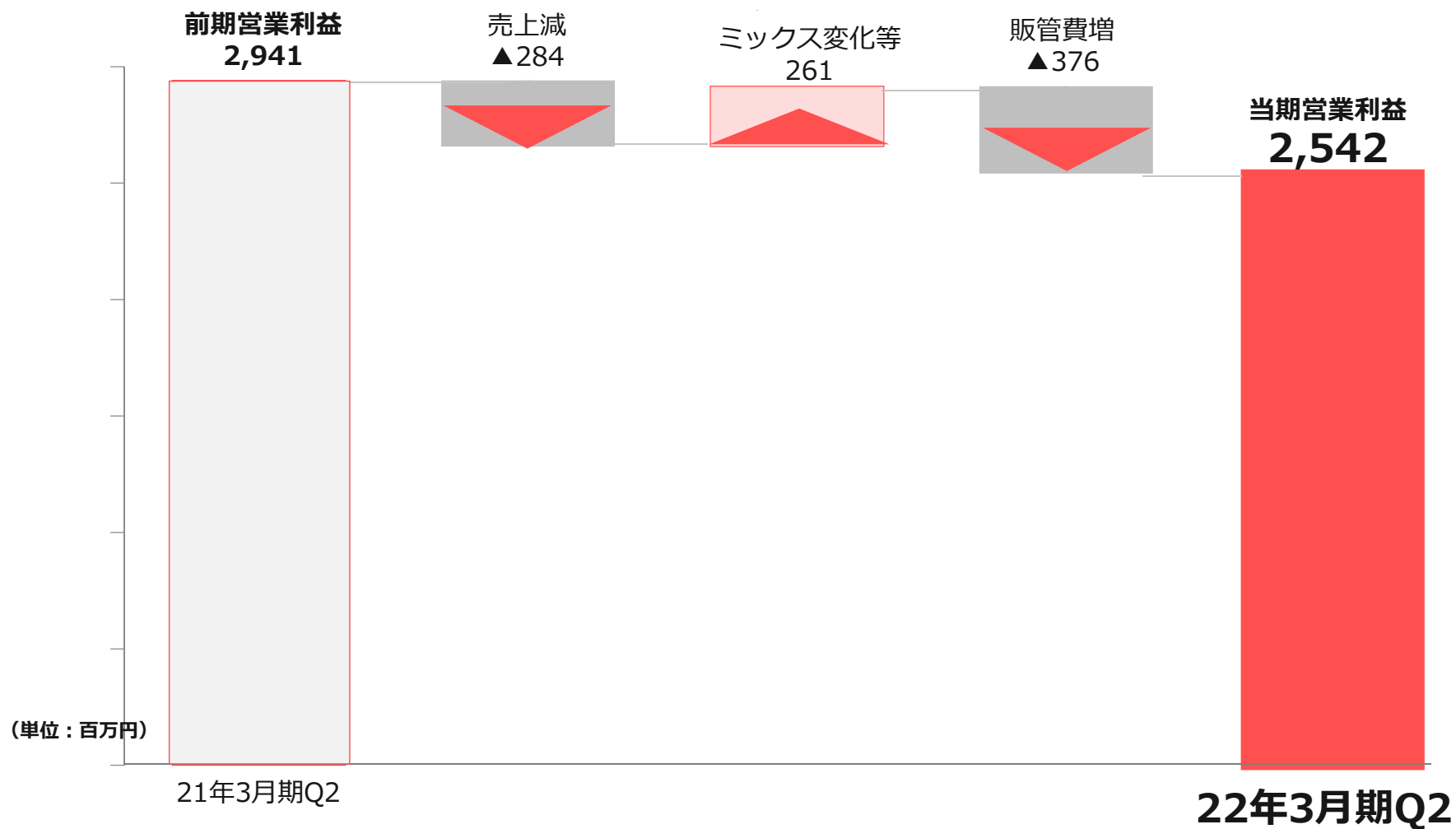
# 販売費及び一般管理費

▶ 会計方針の変更(新収益認識基準の適用)による影響を除くと、全体としては前期とほぼ同じ水準で推移



(単位：百万円)

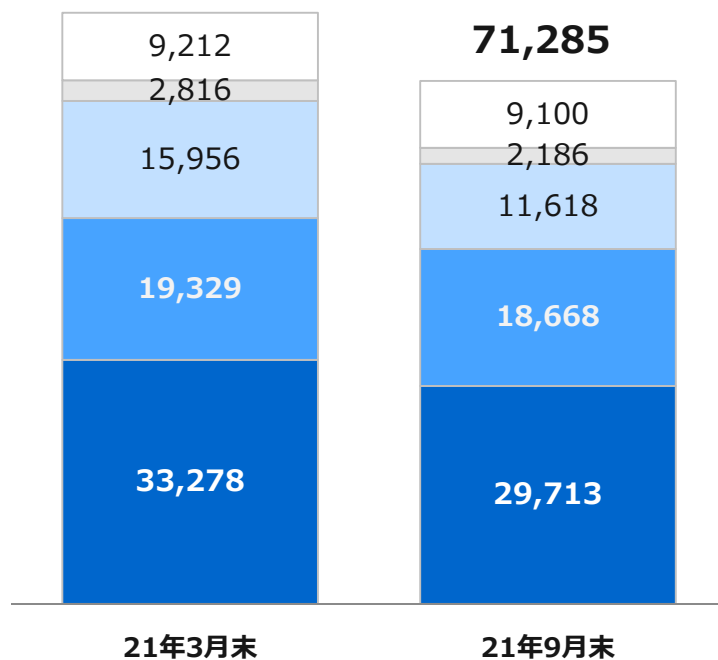
## (参考) 連結営業利益の差異分析



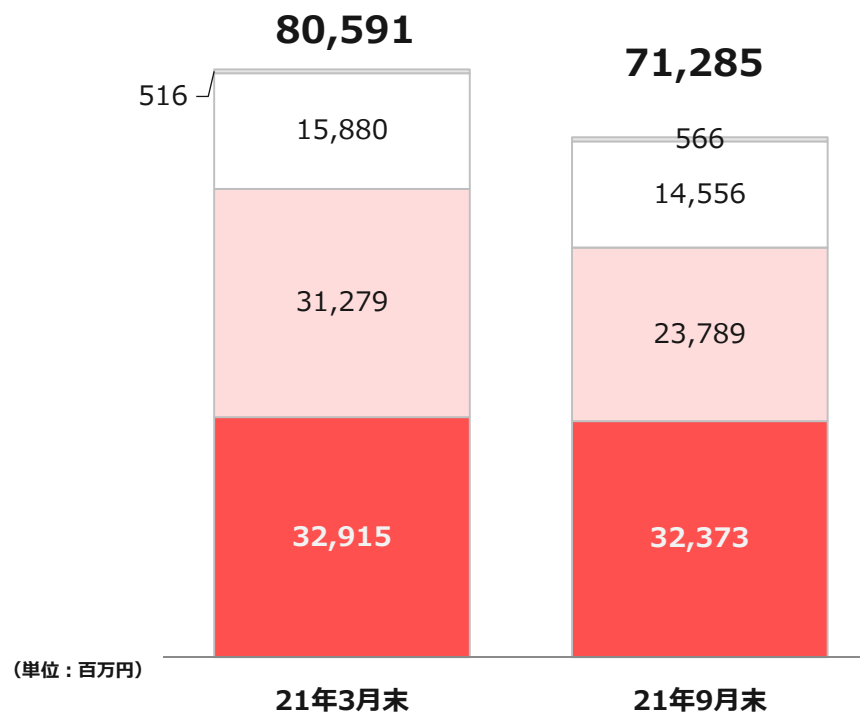
# 連結貸借対照表の推移

- ▶ 現預金は、前受金の減少や借入金の支払い等により3,565百万円減少し29,713百万円
- ▶ その他流動負債は、前受金や未払い法人税の減少で7,490百万円減少し23,789百万円

総資産



負債・純資産



■ 現金及び預金 ■ 受取手形及び売掛金 ■ 棚卸資産  
 ■ その他流動資産 □ 固定資産

■ 純資産 ■ その他流動負債  
 □ 借入金（短期・長期） □ その他固定負債

# 連結キャッシュフロー

- ▶ 営業CFは、売上計上による棚卸資産の減少や四半期純利益の計上、前受金の減少(6,407百万円、その他を含む)により671百万円
- ▶ 財務CFは、借入金の返済、非支配株主への配当支払い、中国販社完全子会社化により▲3,825百万円

金額単位：百万円		21年3月期 Q2	22年3月期 Q2
営業活動による キャッシュフロー	税金調整前純利益	3,147	2,948
	売上債権（増加▲）	▲2,062	491
	たな卸資産（増加▲）	4,809	4,719
	仕入債務（減少▲）	▲281	11
	その他	8,980	▲7,498
	<b>Total</b>	<b>14,593</b>	<b>671</b>
投資活動によるキャッシュフロー Total		<b>▲447</b>	<b>▲442</b>
財務活動による キャッシュフロー	借入による収入	13,899	70
	返済による支出	▲9,040	▲1,394
	その他	▲557	▲2,501
	<b>Total</b>	<b>4,302</b>	<b>▲3,825</b>
現金及び現金同等物に関わる換算差額		26	30
現金及び現金同等物の増減額（減少▲）		<b>18,474</b>	<b>▲3,565</b>
期首現金及び現金同等物残高		<b>11,981</b>	<b>33,158</b>
現金及び現金同等物の期末残高		<b>30,455</b>	<b>29,593</b>

# | 業績予想

# 2022年3月期の業績および配当予想

## ▶ 業績予想修正理由

- ▶ 新製品：利益率の高い一部新製品の市場投入の遅れ、新型コロナウイルスの感染再拡大による顧客との共同評価の遅れ
- ▶ 従来装置：半導体部材の納期遅延に伴う生産の混乱、顧客の投資計画変更による期ずれ

## ▶ 配当予想の修正は無し

業績予想	22年3月期(5/12時点)		22年3月期(11/8時点)		21年3月期 (実績)	新予想 対前期 増減率
	金額(百万円)	構成比	金額(百万円)	構成比	金額(百万円)	
売上高	60,000	—	53,000	—	55,186	▲4.0%
営業利益	7,200	12.0%	5,000	9.4%	6,604	▲24.3%
経常利益	7,050	11.8%	4,900	9.2%	6,836	▲28.3%
親会社株主に 帰属する当期純利益	4,300	7.2%	3,750	7.1%	3,513	+6.7%
EPS	444.70円		387.82円		363.41円	—

配当予想	22年3月期(5/12時点)	22年3月期(11/8時点)	21年3月期 (実績)
中間	60円	変更無(12/6より支払い開始)	60円
期末	60円	変更無	60円

# | 当社および主要子会社の概況



# バイ・テクノロジーの概況(1/2)

## 1. FPD関連の新製品や新事業の開発の遅れについて

新型コロナウイルス(デルタ株)感染再拡大の影響を一番受けたのが、海外顧客との研究開発活動

- ① 次世代FPD技術の開発パートナー(顧客)は、ほぼ全て中国
- ② 現地への渡航(顧客の来日)→客先実装置(or 当社デモ機)による検証に深刻な影響
- ③ オンラインコミュニケーションの限界

## 2. FPD関連の主な新製品/新事業の一覧

製品/事業	用途	顧客(パートナー)	地域
レーザーアニール装置	MiniLED	A社	中国
	μLED	B社	
ファインハイブリッドマスク (FHM)	OLED	C社、D社	
縦型蒸着装置		E社	
サルベージ		F社、G社	

全件、大きな影響を受け遅れが発生

# バイ・テクノロジーの概況(2/2)

## 3. 研究開発

遅れを取り戻し、新製品・新事業の開発を加速する為の取組みについて

### ①グローバルトップメーカーと連携を強化

- ・ 国内、海外
- ・ 半導体、ディスプレイ
- ・ フォトマスク
  - FPD
  - SEMI

### ②開発リソースの選択と集中

- ・ 重点分野
  1. 半導体
  2. フォトマスク
- ・ イノベーションセンター(仮称)を設立

### ③技術開発力の強化

- ・ レーザー・UV等「光」加工技術
- ・ 新しい光学系とAIを組合せた技術
- ・ 高精細化と超精密制御

## 4. フォトマスク

OLEDとレガシー半導体(1<sup>st</sup>Layer)に注力

### 1. OLED

#### ①検査

- ✓高感度・低疑似欠陥・高タクト
- ✓導入顧客の評価急上昇

#### ②修正

- ✓高精細マスク対応

### 2. 半導体

✓レガシーフォトマスク向けで  
製品系列増(1<sup>st</sup> layer: マスクライター/AOI/レジストレーション)



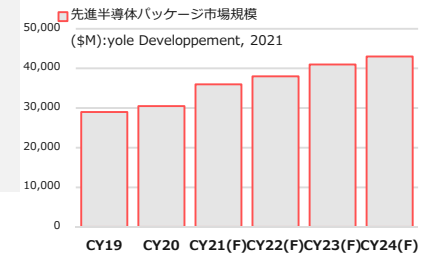
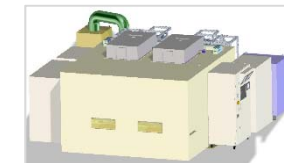
## 5. 半導体用パッケージ

先端パッケージ用露光装置を開発中

・グローバルメーカーと共同評価

・非常に良好な結果を取得

・早期受注を目指す

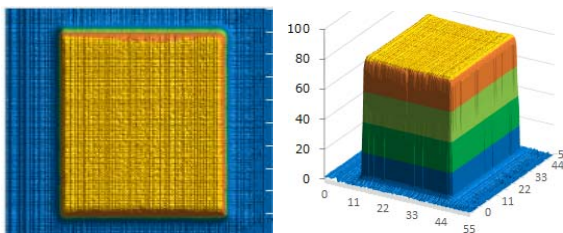


# 主要な子会社等の概況(1/2)

## 1. OLED用蒸着マスク(VET社)と縦型蒸着装置(VT社)

製品化に時間を要するも進化続く

- ① 顧客との共同評価の遅れ(Covid19)
- ② VT蒸着装置での成膜評価で良好な結果



膜厚測定結果(x50)

- ③ 製造歩留り改善
- ④ 蒸着OLED大型化
  - ・ G8.5Hへの適用
  - ・ 中型パネルのOLED化

### 蒸着マスク (Fine Hybrid Mask)



- ・ 樹脂+金属のハイブリッド構造を採用
- ・ 最軽量/高精細/高位置精度
- ・ 組立作業不要

### 縦型蒸着装置



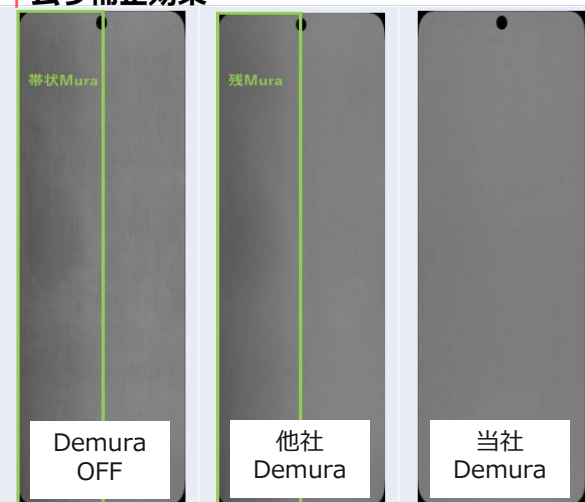
- ・ 水平蒸着方式と比較して少ない設置面積、原理的に基板の大型化に対応容易

## 2. サルベージサービス(VSC社)

半導体不足の影響が直撃

- ① IP搭載ドライバICの生産遅れが続き、本格稼働は22年までずれ込む見込み
- ② 22年中国パネル出荷は前年比2.5倍予想
- ③ ドライバICメーカー複数社と協業進行中

### ムラ補正効果



昆山工場外観



Demura装置

## 3. 農業(トマト生産技術)

中国でJV設立、体制の整備進む

- ① 愛美客農業科技(蘇州)有限公司



1期ハウス 約1ha (10,000㎡)  
アイメック®システムによるトマト栽培

- ② ビジネス

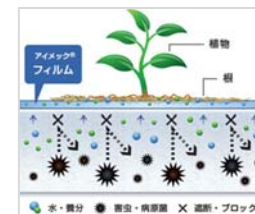
### 1. JV及びパートナートマト販売

#### ブランドコンセプト

日本発の最先端・最新のフィルム栽培で育った  
安心で・美味しく・健康になれる  
唯一無二のブランドトマト

### 2. アイメック資材販売

#### アイメック®



- 高濃度・高糖度を実現
- 安心・安全
- 世界各国で特許取得済
- 土壌を問わずに栽培可能
- 未経験者でも短期間で習得可能

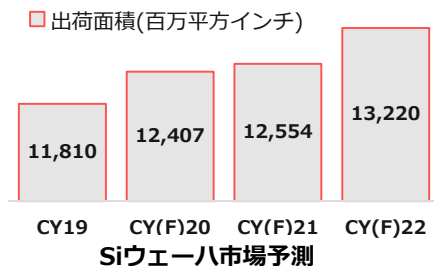


# 主要な子会社等の概況(2/2)

## 4. ナノシステムソリューションズ

シリコンウェーハ設備投資が本格化  
300mmウェーハ工場はフル稼働が続く

- ① 引合増に対応し、実績を積み、シェア拡大中
- ② 一層厳しくなる品質保証要求に対応



## 5. オー・エイチ・ティー

開発テーマ：電気検査と画像検査の  
境界で世界に無い製品を作り出す

EPIS(Electrical Picture Inspection System)  
>回路に流れる電流を可視化



用途  
- 半導体パッケージ  
用PCB

## 6. リソテックジャパン

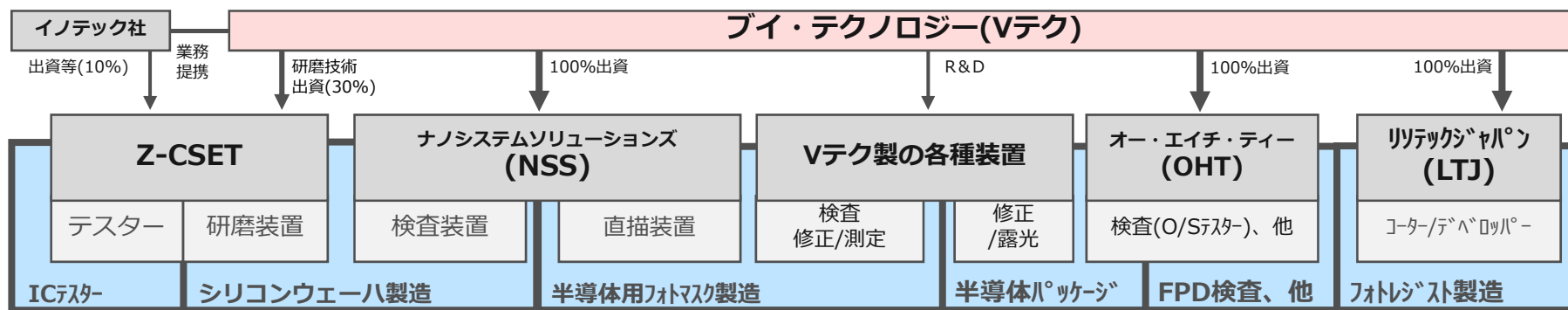
海外顧客向けに拡販、VTグループ  
販社が支援

海外メーカー等の引合増加



(参考) 装置系主要子会社との資本関係、および製品と対象市場(水色網掛け)


M&A・業務提携・R&Dを駆使し、事業を拡大



# | サステナビリティ

# 経営理念・サステナビリティ

サステナビリティの視点から、会社の持続的成長とその先にある経営理念の実現に取り組んでいます。

<b>経営理念</b>	大いなる志と溢れる情熱で、世界最高のイノベーションを創造し、社会に貢献します。				
<b>経営方針</b>	独自の強みで、規模の拡大と収益の安定化を実現し、世界有数の製造ソリューションプロバイダーを目指します。				
<b>事業</b>	FPD		半導体		農業、他
<b>施策</b>	M&A	R&D	顧客	SCM	人材
<b>サステナビリティ</b>	<b>環境</b>	<b>社会</b>			<b>ガバナンス</b>
	<p>露光装置光源LED化 ・光源消費電力約90%減</p>  <p>・ネクスファイ・テクノロジー社への資本参加</p>  <p>SiC(炭化ケイ素)を応用製品及びシステム/ 高压直流送電/EV</p>	<p>【社会】宮城県柔道連盟指導者向けイベント「第2回COME BACK女子柔道」に宇高監督が出演</p> 			<ul style="list-style-type: none"> <li>・監督と執行の分離             <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 取締役5名(内社外取2名)、指名・報酬委員会の設置、他</li> </ul> </li> <li>・リスクマネジメントの強化             <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 本部制/関係会社管理室を整備</li> </ul> </li> <li>・ステークホルダーとの対話             <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 情報開示と対話の体制を整備</li> </ul> </li> </ul>
<b>役職員行動指針</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 気迫をもって臨んだか？</li> <li>2. 誠意に反することなく、言動に恥じる事はなかったか？</li> <li>3. 十分に努力し、最後まで全力で取り組んだか？</li> </ol>				



**V-TECHNOLOGY**